

2023. 9. 13. (WED).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『おおきに祭』

本校では文化祭のことを「おおきに祭」と呼びます。誰が名付けたのかは知りませんが、なかなか素敵なネーミングだと思います。保護者の方や



先生方、地域の方、そして何よりも共に学校生活を送る仲間に対して感謝の気持ちをもてるようにとの思いや願いが伝わってきます。

2日間の「おおきに祭」を通じて感じたことを綴っておきます。

一番に感じたのは、生徒の楽しみ方の上手さです。教師としては中学校の文化祭しか知らなかったのですが、それに比べるとかなり自由度が高いなと思いました。高校生が主流ということもあるでしょうが、中学校のそれとは楽しみ方が随分と違っていています。そう言えば、自分が高校生の時も“こんなん”だったかなという記憶が蘇ってきます。（40年以上前の昭和の時代のことだから自由度はもっと高かったかもしれません。）

校内での食べ歩き、舞台と会場とを一体化したステージ発表の盛り上げ方、お揃いのTシャツに身を包んで（私たちの頃は法被でした）クラスの団結感を楽しむこと、この時とばかり先生との時間を楽しむこと、本当に楽しい空間と時間でした。

次に思ったのが、生徒の意外な一面の発見です。『この子、こんなにダンスがうまかったのか！』『普段は真面目に勉強している姿しか見ないのに、こんなにすごいパフォーマンスができるんや！』『美しい声で歌うなあ』『見事な演技力だ！』『こんなにオモロイことのできる子やったんや！』『えっ、こんなにリーダー性があったなんて？』いろいろな発見です。「おおきに祭」以来、見方が変わった生徒が何人もいます。

更に、教職員の子どもを思う気持ちの強さです。生徒を主人公にするために、そして生徒を楽しませるために様々な努力と工夫もしていました。上の写真は教職員が吹奏楽部の演奏に合わせてパフォーマンスをする直前のものです。高校3年生が引退して初めての本番ということで、不安もあり何とか盛り上げたいということで生徒たちから依頼がありました。実は私も参加したのですが、この後、会場全体が揺れんばかりの拍手と手拍子、踊りと歓声に包まれたことはここに書くまでもありません。

最後に来年度に向けての要望を2つほど示しておきたいと思います。1つ目は、合唱や演劇、特に合唱にもっと力を入れてはどうでしょうか。上級生の美しいハーモニーから下級生が色々と学ぶことは学校ならではの取組です。もう一つは2日目のプログラムをうまく整理して舞台発表や模擬店の取組を全員が楽しめるようにできないかということです。とてもよい取組や発表があるのに全員が見られないのはもったいない気がします。是非ご検討ください。とにかく楽しい2日間でした。そして生徒が成長した場面でもありました。次は来月の「Move！（体育祭）」が大いに楽しみです。

2023. 9. 5. (TUE).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『歓声』

グラウンドから歓声が聞こえてきます。はじめは小学生かと思っていましたが、どうも違うようです。カーテンの隙間から覗き見ると中学生がリレーをしていました。どうやら、来月のMove! (体育祭) に向けて本格的に練習が始まったようです。



リレーは、今も昔も体育大会の花形種目です。精一杯走る選手と精一杯応援する人たちの声が歓声となってグラウンドに響き渡ります。こういう声を聞き、雰囲気を感じると、自然と『学校っていいな』と思います。前回のこの通信の結びに「時にはぶつかり合いながらも集団の中で自分を見つけ、そんな自分を磨き続け、仲間と共に成長していくところ、それが学校ではないかと思う」と書きましたが、まさにその場面が目の前にありました。

誰かが走っているときには声が枯れんばかりに応援し、アンカーがゴールした瞬間に多くの人がグラウンドに倒れこむ様子を観て、学校教育のあるべき姿を思い出したように思いました。足が速かろうが遅かろうが、勉強が得意であろうが不得意であろうが、とにかく全力を尽くすこと、それができれば誰からも非難されることはありません。今日のリレーの場面では、いい加減な態度で走る人は一人もいませんでした。足の遅い人に対してもみんなが全力で応援し、その人が完走した際には多くの人がねぎらいの言葉をかけている姿を観た時には、本当に温かい気持ちになりました。

一方、決してそんな風になってほしくはないのですが、反対の場面も想定できます。足の遅い人に対して「あの子のせいで負けた!」と平気でそういう言葉を吐く。負けているからといって、いい加減な態度で臨んだり全力で走らない、こんな状況だとみんなが嫌な気持ちになります。同じこと(リレー)をしていてもちっとも楽しくありません。残念ながらこんな経験をしたことがある人もいるのではないかと思います。

集団には、もっと言えば社会にはいろいろな人がいます。リレーでいえば足の速い人・遅い人となるでしょうが、様々な立場の人がいるということです。一人ひとりの個性を尊重し、互いの良いところに向けてレスペクトし合えればとっても良い集団(社会)に育っていくはずです。そして、そんな集団なら、嫌な思いをする人がなくなりますし、“いじめ”や“差別”が起こることもないはずです。

Move! (体育祭)の前には「おおきに祭(文化祭)」があります。その際にも、他学年の人も含めて仲間の取り組んでいることに理解と敬意を払い、互いに仲間を尊敬し合って鑑賞し、称え合いましょう。講堂で行われる舞台発表の際、誰一人白けることなく、今日のリレーの時のように、舞台上で演じている人に対して心からの声援を送りましょう。そうすれば、きっと講堂も愛に溢れた素敵な歓声に包まれると思います。

2023. 9. 1. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『学校というところ』

毎朝5時半には愛犬の散歩に出ます。今朝は、この夏初めて『あれっ、夜明けが遅くなったかな！？』と感じました。そう言えば、夕方少し早く暗くなるようにも思いますし、草むらからの“虫の声”も大きくなってきました。確実に季節は移っていると感じています。

さて、2学期が始まって1週間が経ちました。夏休み中も多くの生徒たちと会ってはいたのですが、授業中の子どもたちの様子を観たり、制服姿の子どもたちと接したりするようになって、改めて2学期が始まったことを実感しています。

中学校陸上部の4×100mRの全国制覇をはじめとして、この夏も生徒たちは各部で輝かしい成績を収めました。

このところ、学校の部活動について考えることが多くなっています。と言うのも、夏休みに“光華カップバレーボール大会”を催したことがあるのだと思います。

光華中学校にはバレーボール部がありません。これを作りたいとの思いから“光華カップ”を始めました。勿論、高等学校のバレー部顧問からの申し出でしたが、創部したい理由を聞くうちにその思いに納得し、賛同している自分がいることに気づきました。そして、それ以来、学校における部活動の役割や部活動を学校ですることの意義について、これまで以上に深く考えるようになっていきます。

学生をはじめとする若者たちに教師の世界がブラックだといわれるようになって久しいです。勤務時間の縮減を凶って働き方改革が急速に進行もしています。特に、部活動の時間が大幅に縮減されつつある現実、社会の目が集中している課題でもあります。3年間続いたコロナ禍もこの動きに拍車をかけ、部活動のあり方が大きく様変わりしてしまいました。思いっきり活動したい子どもは学校を離れてクラブチームへ加入するようになり、熱心に指導してきた部活動顧問の中には“やる気”をそがれてしまった教師も出てきました。

この流れは一定理解しつつ、それでも、朝から一緒に学習し、休憩時間や昼食時には一緒に笑い合ったり、時には言い争ったりする仲間と共に部活動にも励むことは、その競技をすることだけのために集まった者たちとの活動に比べて、その意味は大きいと思うのです。また、「人を育てる」という意味からも、選手の学習面や日頃の生活の様子まで熟知している教師が部活動を指導することもまた重要だと思えるのです。

部活動の目的は「人間形成」あるいは「人格形成」であって、「京都で一番になること」などは目標です。言い換えれば、部活動を通して「素敵な人となる」ことが目的なのです。時にはぶつかり合いながらも集団の中で自分を見つけ、自分を磨き続け、仲間と共に成長していくところ、それが学校ではないかと思うのです。



2023. 8. 26. (SAT).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『2学期の始業式に』

今日から一番長い2学期が始まりました。始業式では「“今”をどう生きるかで未来は決まる」ということをテーマに話をしました。夏休みの期間、生徒たちは様々な経験をしました。勿論思いっきり頑張ったと思います。でも、多分悔しい思いや悲しい思いをした者も少なくないと思います。その過去を変えることはできません。だから、その結果を真摯に受け止め、これからの生き方に活かしていくしかないので。よく「過去（と他人）は変えられないが、未来（と自分）は変えられる」と言いますが、今回はそれを拡大解釈して伝えました。



確かに“今”をどう生きるかで未来は変わりますが、その際に『あの時の悔しさや悲しさがあったから今の自分がある』と思えたりもするものです。つまり、過去に起こった“事実”は変えられませんが、その“解釈”が変わることはあるのです。だからこそ、“今”を精一杯生きて未来と過去とを変えましょう。一生懸命に取り組んだ人は、結果がどうあれ『面白かった』と言うのに対して、いい加減な取り組み方しかなかった人に限って『ショーもな』と言ったりもするものです。2学期は大きな行事があるだけでなく、高3生にとっては大学入試も始まるという、人生にとって大事な節目の時期です。今こそ、学校でしか経験できないことに全力で取り組みましょう。

昨日、中学校陸上部の4×100mRのメンバーが全国大会で優勝を果たしました。

これまで。京都市大会・京都府大会・近畿大会と優勝を飾ってきたメンバーですが、全国大会ではそう簡単にはいかないだろうなと思っていました。

何とも言えない緊張感のなかレースが始まりました。アンカーにバトンが渡った時には1位だと見えたが、ほとんど横一線。アンカー勝負になりました。

アンカーが一気にトップギアに入れて全速力で快走するうち徐々に差がつき始めます。約2mの差をつけて優勝。「来た、きた、キターっ！」ゴール付近で見ていた私は鳥肌が立つ思いでした。



全国には10,000校以上の中学校があります。その頂点に立ったのですから物凄いことです。実は、私がこの4月、グラウンドで練習する彼女らと初めて会ったとき、次のような会話をしました。「校長先生、私たちは全中で優勝を目指して練習しています。もし、全国大会に出られたら愛媛まで見に来てください。」「分かった。その時は必ず観に行くから優勝してな。」春の大会、夏の市・府・近畿大会、その間の厳しい練習、話し合いやトレーニングを重ねて、昨日、見事にすごい夢を実現させたのです。

彼女らから「夢はかなう！」ということを再認識させてもらいました。

2023. 8. 17. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『中学校近畿大会』

中学陸上の近畿大会で本校が総合優勝を飾りました。陸上競技は基本的に個人戦ですが、個人の成績がポイントとなり合計ポイント数で総合優勝校（団体優勝）が決まります。京都市及び京都府大会では圧倒的な強さで優勝を果たしましたが、近畿大会となるとなかなか難しいと思っていました。

4×100mリレーと2年生100m 走の優勝が大きくポイントゲッターになったのは間違いありません。しかし、表彰台は逃したものの200m走や円盤投げ、1500m走でのポイントも大きかったと聞きました。みんな、ホントにお疲れ様でした。

私が嬉しかったシーンを紹介します。表彰式終了後に選手たちが私のところにアドバイスを聴きにきてくれました。率直な感想と次の全国大会への激励を述べたのですが、前の生徒の肩の間から何とか私の話を目で聴こうと頭を動かしている生徒を観た時、この子たちの本気を悟ることができました。また、その後のことです。大会には京都市の先生方が監督やコーチとして京都チームに帯同してくれています。彼女らはその先生方にもお礼とアドバイスと聴きにいったのです。そんな生徒たちとそのような生徒を育てた先生方に“あっぱれ！”のカードを差し上げたいです。

その二日後、今度はソフトテニスの近畿大会団体戦を観に行きました。京都府までは順調に勝ってきた選手たちも近畿大会となるとスナリとは勝たせてもらえません。それでもベスト4までは駒を進めました。ここからは全国大会を目指す勝負です。実は、中学校のほうが高校より全国大会への出場が難しいのです。高校の場合は、各都道府県で1位になれば出場できますが、中学校の場合は、近畿で3校しかその場へ行けないのです。まずは準決勝です。この試合の前、次に対戦することになる準々決勝の試合を観ていました。その時、私のことを知らない第1シード校の監督が次のようなことを言っていたのをたまたま耳にしました。「決勝の相手は京都光華の方がええんや！テニス素直がやし、ずっとやりやすい。」その言葉通り、思い切ったプレーをする学校が対戦相手に決まりました。相手の選手は1本目から前衛にボールをぶつけにきます。“負けて元々”のガッツ溢れるプレーに翻弄され、終始相手のペースで戦うことになって負けてしまいました。次の3位決定戦も同様です。“格下”の相手です。1番手は4-0で勝ちました。2番手と3番手の試合は共にファイナルゲームにまでもつれましたが、“ここぞ！”という時に思い切ったプレーをしたのは相手の方でした。

全国大会への出場権を逃し、悔しい思いをしたでしょうが、本校の選手たちは多くを学んでくれたはずで、近畿大会や全国大会で勝つためのプレーが見えてきたように思います。この悔しさを2年生以下が来年以降へ引き継いでくれることを願います。



2023. 7. 28. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『“今” に全力を！』

夏休みになって 1 週間が経ちました。この間、中学生の夏季大会を中心に様々な大会やコンクールが行われています。また、現在、高校のソフトテニス部は北海道でインターハイ（全国大会）を戦っている最中ですし、今週末には茶道部が全国大会のため鹿児島県へ出発します。



今後もそれらは続きます。特に関西大会や全国大会を目指す部活動は中学部にも少なくなく、熱い戦いは継続しますし、一日でも長く頑張り続けてほしいとも思います。

それにしても、自分の好きなことに没頭できるって何と素晴らしいことなのでしょう。これこそ学生の、特に中学生と高校生の特権だと思います。

京都市立中学校の校長を退職して本校に赴任するまでの2年間、夏休み特有の“この感覚”を忘れていました。“生徒の活躍に心躍らせ、生徒や保護者と共に喜び、共に悔しがるこの感覚”です。そして、今こうして“この感覚”を持たせていただけることを心から嬉しく幸せに感じています。

常々言われているとは思いますが、生徒の皆さんには、自分の好きなことを思いっきりさせてもらっている保護者や先生、友人などに対する「感謝の心」を忘れることなく目の前の“この瞬間”に全力を尽くしてほしいと思います。

高校のソフトテニス部がインターハイへ出発する前、応援旗に次のようにメッセージを書きました。「この一球は絶対無二の一球なり。されば、心身あげて一打すべし。」これは私の高校時代、部室の壁に額に入れて掛けられていた詩の一部です。私は「この一球」を「この瞬間」と置き換えて考え、今もこの詩を「座右の銘」にしています。

折角ですから全文を掲載します。是非味わってみてほしいと思います。

| | |
|------------------------------|---------------------|
| 「この一球は絶対無二の一球なり」 | 福田雅之助（早稲田大学庭球部の卒業生） |
| この一球は 絶対無二の一球なり | |
| されば 心身あげて 一打すべし | |
| この一球一打に技を磨き 体力を鍛え 精神力を養ふべきなり | |
| この一打に 今の自己を発揮すべし | |
| これを 庭球する心といふ | |

今という瞬間は二度とありません。だからこそ、その瞬間を大切にしてほしいと思います。「失敗をするな」と言っているのではありません。失敗を恐れず思い切って取り組んでほしいのです。私は既に60歳を越えました。だから一層、二度とないだろう“今という時”を大切にしたいと思っています。勉強にスポーツに芸術活動に、常に全力で取り組んでください。それが人を成長させます。また、それこそが教育です。

2023. 7. 23. (SUN).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校

澤田 清人

『熱い夏を過ごせ！』

1学期が終了しました。課題がなかったわけではありませんが、生徒と教職員とが一つひとつの課題に丁寧に向き合った結果、無事に夏休みを迎えることができ、“ホッ”としています。

本校には、様々な背景のある生徒たちがいます。それらの生徒に真摯に向き合い、丁寧に指導している教職員の姿を観ると、『本当に、よくやってくれている』と思います。このように、丁寧に生徒に向き合い、とことん寄り添って生徒たちの個性と能力を伸ばしていきましょう。言い換えれば、預かった生徒たちを真に大切にすることです。このことは、今の公立学校では“しにくいこと”になりつつあるのではないかと思います。だからこそ、私たち私立学校に勤めるものが実現しなければならないとも考えます。



赴任前、「女子校」であることに少々不安と戸惑いがありました。しかし、いつの間にかそれはなくなりました。むしろ、『何ら変わりがない』と思うようになりました。さらに言えば、女子だけの落ち着いた雰囲気が好きになっています。男子がいないと休み時間や放課後の様子が全然違うことも分かってきました。外回りから戻ってくると、乱れない服装や挨拶や落ち着いた雰囲気を実感することも少なくありません。熱心に部活動に励む元気な声は聞こえるのですが、それをまったく喧しいとは思いません。4か月を過ごしてみて、女子校の教師になっている自分に気が付いた次第です。

現在の京都光華中学校高等学校は、どこへ出しても恥ずかしくない学校だと思っています。いえ、むしろ私は、生徒が安心して教室や学年の階に居るといった教職員と生徒との関係性では、他校に対して大いに誇れると思っています。特に20日に行った終業式の様子については、他校の教職員に対して自慢したい気持ちで一杯です。全校生徒の前で自分の思いを自分の言葉で表現できる生徒が、今回は8人も登壇してきました。聴く態度もよく、全校生徒と教職員とが一体となった終業式が行えました。

終業式で述べたことを改めて書き記しておきます。夏休み中、部活動や勉強など様々なことに取り組むことになるでしょう。それらに全力で向き合ってほしいと思います。中学生高校生の時期は人生の中で最も体力があります。自分のことを振り返っても、高校生の時の部活動は大学での練習よりもはるかにきつかったですが、翌朝には体力が回復していました。大学受験の勉強もそうです。睡眠時間は短くても深い眠りができていました。この時期だからこそ、熱い心で目の前のことに全力で、そして真摯に向き合ってほしいのです。そのことが中学生高校生の心と身体とを健全に育てます。

全校生徒と確認したことは次の3つでした。勉強には当てはまらないことがあるかもしれませんが、その精神は通じるものがあると思っています。

- ① 「最後まで全力を尽くす」
 - ② 「決して弱気にならない」
 - ③ 「最後まで声を出す」
- これからの35日間で、皆さんにとって「熱い夏」になることを願っています。

2023. 7. 14. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『自覚と責任』

今週に入って、まるで打ち合わせたかのように至る所で一齐にセミが鳴き始めました。いよいよ本格的な暑い夏の到来です。

今月もほぼ半分が経過し、気が付けばあと一週間で1学期も終わります。月日の経つのは本当に早いと感じているところです。

さて、最近になって何度か保護者や保護者会の皆さまの前でご挨拶をする機会がありました。同じようなお話しをしたのですが、その内容をより多くの皆様方に知って頂きたいと、以下に改めて紹介します。



本校に赴任して3か月余りが経ちました。『京都光華の校長に成ったんだ』と強く自覚する場面が3つあります。

1 つ目は、校内での休み時間や部活動の試合等の応援に行った際に、私の姿を見つけた生徒が「校長せんせーい！」と言って手を振ってくれる時です。あの瞬間は、生徒たちをとてつもなく愛おしく感じるとともに、大きな喜びが込みあがってきます。

2 つ目は、本校の“悪口”に触れた時です。人と話しているときに本校のことを悪く言われたり、SNSへのマイナスの書き込みを読んだりすると、メチャクチャ腹が立ちます。そしてそんな時に『光華の校長に成ったんだ』と強く自覚もするのです。

3 つ目は、知らず知らずのうちに使う言葉にその自覚を感じるのです。具体的には、「うちの学校」という表現です。赴任早々の頃は多分「ここの学校」という言い方をしていたのではないかと思うのですが、いつの間にか「うちの学校」と言うようになりました。「ここの学校」という言い方には第三者的に観ている感があります。

「自覚」が強まってきた分だけ「責任」を強く意識するようにもなりました。

本校に通っている生徒の大切な命を預かっている。この子たちに決して悲しい思いや辛い思いをさせてはならない。生徒たちの思いや願いを受け止め、それに寄り添い続ける。生徒たちの個性や能力を尊重し、それを伸ばして進路を実現させてやりたい。また、生徒の数だけ保護者の方がおられます。こうした人たちの期待に応えなければなりません。それが大きな責任です。どれだけできるか分かりませんが、私にやれるだけのことはしたいと決意しています。

“うちの学校”での仕事はまだ始まったばかりです。生徒や教職員、保護者の皆さんには理解していただかなければならないことや協力してもらわなければならないことがたくさんあると思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

今日、終業式で生徒たちにする話を考えました。1学期にやりきれなかったことはありますが、その振り返りよりも今後のことを中心に話そうと決めました。校長としての自覚と責任を大切に、生徒の成長を願って前を向いて進んでいきたいと思えます。

2023. 7. 7. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『特別な授業』

今年度は11月17日に光華学園「幼・小・中・高」あけての「研究発表会」を計画しています。

学校の研究発表会には「研究授業」がつきもので、ちょうど今、その日の授業者を決めているところです。一昨日の会議で私から候補者を提案しました。その際、「研究授業」についての私の考えを述べたので、ここでその場にいなかった教職員や生徒の皆さん、保護者・地域の皆様方ともそれを共有しておきたいと思います。



「研究授業って言ったって、何も特別なことをする必要はない。普段通りの授業をすればいいやん！」

研究発表会がポピュラーでない頃にはよくそんな言葉を聞きました。まずはそれに対して私の考えを述べたいと思います。

研究授業は特別の授業でなければいけません。その理由は主に2つあります。

1つ目は、授業づくりや学級づくり、あるいは学校をあげて、「研究していること」（研究テーマ）があって、それに向けての授業であるからです。テーマを設定する背景には子どもの課題があります。その課題を解決するために時間をかけ工夫を重ねて実践してきた授業を発表するのが研究授業なのです。

いくつかの例をあげます。授業の中に「対話」を盛り込む ICT を有効に活用する PC やポスターを活用して発表をさせる 討議を軸として授業をつくる etc 「生徒が受け身的で、発言の機会が少ない」という課題がある場合に行う研究授業を思いつくままにザッとあげましたが、こういうものです。

2つ目は、参観者にその授業から自分の授業づくりにとって有効な何か、参考にもらえる何かを掘み取ってもらうための授業であるからです。だからこそ、普段はやらない斬新なアイデアを工夫し、参観者に「こんな授業のやり方がありますよ」と提案するのです。その日のために内容の練られた授業を観た人が「この授業をそのまま自分の学級で実践することは難しいけれども、この部分なら取り入れられるかもしれないな」などと思ってもらえるような授業にする必要があるのです。だから、普段通りではなく、特別の授業でなければならないのです。

「研究授業は邪魔くさい」「授業はともかく、指導案を書くのが面倒だ」こんな声を聴いたりもします。研究授業に取り組む機会が少ない人ほどこういうことを口にします。実は何度もやっている、「研究授業」に取り組むことで自分のスキルがアップするのが分かってきます。学習指導案を書くことが苦ではなくなってもきます。教師も生徒も『折角やるのだから、より多くの人に観に来てもらいたい』と思うようになってたりもします。工夫を凝らして“特別な授業”を設計し実現してほしいと願います。11月17日、どんな「研究授業」が観られるのかが楽しみです。

2023. 6. 29. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『希望を叶えてほしい』

ピンクだったアジサイの花がその色を変え、近頃は更に深みのある色に変えつつあります。今週になって急な大雨が降ることが多いですが、案外アジサイは喜んでいるかもしれません。

さて、6月1日から始まった「教育実習」が昨日をもってすべて終了しました。校種や職種によって実習期間は2週間から4週間とまちまちです。今朝は、校門に一人で立つことになり、教育実習が終了したことを実感しました。実習生の一人からメッセージをもらったので紹介します。彼女は養護教諭を目指す元気な学生です。



『実習を終えて』

養護教諭 実習生 廣林 涼佳

養護教諭になるために4週間の実習期間を母校でお世話になりました。

生徒としてではなく、一人の教員として学校に通うと、生徒時代とはまた違う学校の姿が見えてきました。同じ年代の仲間とたくさん出会い、協力したり、思い出を共有したりできる場であるのは、学校ならではの環境であることに気づきました。

私は、養護教諭の実習であったため、1日のほとんどは保健室での生徒対応を行っていました。なるべく、朝の挨拶や廊下で声をかけるように意識しましたが、断片的にしか関わらず、生徒との関わり方について悩むことがありました。その時、実習の終了式で澤田校長が「生徒と生徒を結べる先生であってほしい」と話されていたことを思い出しました。それを意識して関わると、保健室に頻繁に来室していた生徒が、怪我で来室した一つ年上の生徒たちと保健室で言葉を交わすようになり、明るい表情や授業へ参加することができるようになりました。

今回のような関わりが全てではありませんが、校長先生のお言葉に学校の重要な役割の一つを強く実感した瞬間でした。この実習を通して、生徒一人一人が、自分らしく学校生活を送るように関わっていける教諭になりたいと思いました。

この学生は4週間の教育実習を行いました。看護師として働いていた経験がありますが、学校の保健室の先生になりたいと決意を新たにして頑張っています。教員免許を取得するうえで、教育実習は最後・最終の単位だといっても過言ではありません。社会人として働いた人が大学で学び直し、ようやく教育実習へと漕ぎつけたということです。ある時、看護師から養護教諭へと転身したい理由を尋ねました。彼女はICUに勤務していたそうですが、そこに運ばれてくる若者の中には大きな悩みを抱えて自らの心身を傷つけてしまう人もいます。そんな人、特に学齢期にある生徒の気持ちに寄り添い、悩みの解決に協力したいというのがその理由だそうです。とっても素晴らしい動機だと思いましたし、是非その夢を叶えてほしいとも思いました。

本校生徒の皆さん、皆さんも自らの夢に向かって果敢に挑戦してほしいと思います。教育実習生の生き様から夢に向かって頑張るということを再考させられました。

2023. 6. 22. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『夢のような時間』

20日(火)、「あけぼの会」(本校の中学高校保護者会)の企画で宝塚歌劇の鑑賞会に参加しました。劇団「四季」のミュージカルは大好きで、それこそ「ライオンキング」や「美女と野獣」、「キャッツ」などは複数回観ています。一方、宝塚歌劇の鑑賞は60歳を越えるこの年までで初めての体験です。本当に素晴らしい時間を過ごさせていただきました。

阪急宝塚駅に降り立った瞬間から、まるでディズニーランドやUSJ等のテーマパークを訪れたかのような感覚に陥りました。マンションやテナントなどの建造物、道路や街路樹など、街全体が『夢の世界』として設計されているようです。

大劇場の横にはホテルがありました。こちらもとてもお洒落で、大劇場と見事にマッチングしています。全国のファンがここに宿泊して歌劇鑑賞するのでしょうか。

劇場に入ると、その大きさに驚かされました。おそらく4000人ほど収容できるのではないと思われる広さです。私の席はやや端寄りでしたが、座ってみるとそれを感じさせないような設えになっていました。

今回の演目は「1789」。世界史が好きな人はこの数字を観れば“ピーン!”とくるものがあるはずです。そうフランス革命の起こった年です。自由と平等を求めて市民(国民)が絶対王政を倒していくのです。ヨーロッパ各国で同様の革命が勃発しますが、その中でも最も過激で多くの血の流されたのがフランス革命でした。

以下に今回のステージのあらすじを簡単に紹介します。

主人公はパリ郊外で農業を営む青年。重税に反対する父親を役人に殺され、土地も奪われた彼は社会を変えたいとパリへ出る。そこで若き革命家たちと出会い、自らも“新しい時代”を切り拓こうと運動に加わる。一方、ベルサイユ宮殿では、市民(国民)の苦しみなど意に介することなく贅沢な生活が繰り広げられている。「パンがなければケーキを食べればいいじゃないの!」という王妃マリー・アントワネットの有名な言葉はこの頃に発せられた。そんな王妃の息子(王太子)の世話役として宮中に勤める女性が主人公と出会うやがて恋に落ちる。この女性の父親がバスチーユ牢獄の火薬庫の門番だという設定は面白かった。バスチーユ牢獄には、革命の中心人物が投獄されていたほか、地下に大量の武器弾薬が保管されていたとされる。そこで、フランス革命は、投獄されている人たちの救出と武器弾薬を奪う目的でこのバスチーユ牢獄を襲撃するところから始まるのである。ステージは民衆が自由を勝ち取って終了した。

このストーリーが絢爛豪華な衣装と舞台装置で展開されるのですから観ている者が魅了されないわけがありません。また、歌とダンスは圧巻で、驚きと感動の連続でした。選びに選び抜かれた俳優たちが練習に練習を重ねた結果の素晴らしい舞台でした。

「夢のような時間」を与えていただいた「あけぼの会」の皆様から感謝します。



2023. 6. 15. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『気づきが心を豊かにする』

皆さん、おはようございます。高校2年4組の〇〇〇〇です。
このような機会を与えていただきありがとうございます。
今回、私は「隠れた感謝」についてお話ししたいと思います。
私は普段吹奏楽部として活動しており、自主練のために朝すこし早く学校に来ているのですが、毎朝必ず会う人たちがいます。それは清掃員の皆さんです。この学校に通う人たちならば、一度は誰だって会うことがある人たちですが、清掃員の方々が毎朝何時から学校の掃除をしてくださっているのかを私は知りません。しかし、毎朝外の掃除に加え、廊下やごみ箱内のごみの回収など私たちが登校する前から、見えないところで清掃員の方々が頑張ってお掃除をしてくださるおかげで、毎日学校がきれいになっていることを心の底からうれしく感じることがあります。



他にも、部活の本番などで外に演奏に行くときに、私達が会場に着く前から準備をしてくださったり、演奏終了後の後片づけなどすべてしていただいたりしているボランティアの方々や会場のスタッフの方々もいます。このように二つの話以外にも、見知らぬところで助けられていることはたくさんあるのだと思います。皆さんも同様に何気なく日々を過ごしている中で、知らないところで誰かが助けてくださっていることが思っている以上に多いかもしれません。そうしたなかなか見えてこない部分にも感謝の気持ちを持ちながら、私も誰かのために何かをできる人になりたいと思いました。ご清聴ありがとうございました。

以上は昨日(14日)の朝の礼拝時に代表の生徒がおこなった「感話」の内容です。
今日の朝、早速清掃員の方に伝えました。「お知らせ頂いてありがとうございます。生徒さんにそのように言っていただいて、本当に励みになります。」その方はそう言っておられました。

ところで、この生徒は「感話」をすることで多くの人に自分を振り返る機会や身の周りのことについて考える場面を与えました。とても素晴らしいことですが、それは、彼女自身が成長できた部分があったからだと思うのです。世の中はいろいろな物事で溢れています。しかし、気づけずに過ごしてしまっていることが案外多いのかもしれない。例えば、道端に咲く草花や小鳥のさえずり、川のせせらぎや風の音、空気の湿り気などです。これらに目や耳や心を向け、その変化に気づけると、ちょっぴり心が豊かになるのではないかと思います。もっと言うと、道端の草花を美しいと感じたり、小鳥のさえずりや川のせせらぎ、風の音や湿気に季節の移ろいを感じたりできたら、それに気づけない生活よりも心豊かに生きられるのではないのでしょうか。

中学生・高校生の皆さんには忙しい毎日だと思います。その保護者の皆様方にとっても同様です。しかし、少し立ち止まって身の周りを見つめてはどうでしょうか。

「感性」を研ぎ澄ませましょう。新しい気づきがあれば、人生が今より少しだけ豊かになるかもしれません。生徒の「感話」からそんなことを思いました。

2023. 6. 8. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『優勝おめでとう！』

6月3日（土）・4日（日）の両日、丹波自然公園でソフトテニス部のインターハイ（全国大会）への京都府予選大会が行われました。3日は個人戦、そして4日が団体戦です。インターハイ出場は、高校生アスリートにとって、今も昔も最も大きな目標であり夢です。実際、40年以上前の私もその夢に向かって日々テニスコートでボールを打ち続けていました。



団体戦終了後に撮影した記念写真

個人戦では他校の追従を許さないほどの好結果を得ました。出場枠8ペアのうち7ペアを本校の生徒が占めたのです。決勝戦は本校の生徒同士で行われましたしベスト4にも3ペアが入りました。（ベスト8はすべてが本校の選手たちです）特に、4人しかいない3年生が全員出場権を得たことは大変うれしいことです。

このように書くと、翌日に行われた団体戦でも圧倒的な力の差を見せつけて優勝を成し遂げたように思われるでしょうが、実はそうでもありませんでした。個人戦の出場枠に1ペアを送り込んできた高校の実力は高く、決勝戦はハラハラ・ドキドキの連続でした。ソフトテニスの団体戦は通常「3ペアの点取り戦」で行われます。1番目に出場した個人戦の優勝ペアは、各ゲームは接戦したものの結果的にはゲームカウント4-0で勝利しました。2番目に出たペアはリードしながらも逆転され2-4で敗れます。相手ペアの“強気の攻め”に抗しきれなかったというところでしょうか。相手ペアは個人戦で負けた悔しさをこの試合にぶつけてきたという印象をもちました。

さあ、いよいよ3番勝負です。本校はキャプテンが前衛を勤めるペアが出場します。後衛は2年生です。前日は準決勝で敗れています。その試合は慎重にゲーム運び過ぎたように思いました。『思い切っていけよ！』心の中で何度も念じましたし、実際に何度か口にも出しました。ファーストゲームを奪うものの次の2ゲームを奪われ、一気に劣勢に立たされます。『自分たちの負けはチームの負け』その思いがどうしてもプレーを慎重・丁寧にさせます。それは相手も同じで、先に思い切った攻撃に出た方に軍配が上がるだろうと思われました。前日の反省を生かしてか、後衛が何本か思い切った強打をしました。はじめこそボールがコートの外に落ちましたが、この気持ちよかったのでしょう。次に放ったボールはベースラインをかすめました。一度は“アウト”のコールがされたものの判定が覆り、その1打が決定打となって勝利しました。

「耐えて辛抱して、ここぞというときに思い切る。それも相手よりも先に！」まるで人生のあり方を見ているようでした。卒業生やその保護者の方も含めて多くの、本当にたくさんの応援の方に支えられて見事に目標を達成しました。インターハイへの切符を手にした選手たちには本番で一層輝いてほしいです。周りの方々への感謝の気持ちを忘れず、全国制覇を目指して頑張ってください。みんな、本当におめでとう！

2023. 6. 3. (SAT).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『生き方を考える』

5月24・25日には中学1年生が、31日には高校1年生が「本山研修」を行いました。今更言うまでもなく、本校は浄土真宗大谷派の教えを建学の精神としている学校ですから、本山とは東本願寺を指します。

東本願寺へ行って研修をすると聞くと、どうしても早朝からお経をあげたり掃除をしたりするなど厳しい「修行」をさせられるのではないか、というイメージ

をもたされてしまいます。私もそのように思っていました。子どもたちの様子を観に行き行ってそれが間違いであったことに気がきました。そこに学ぶ生徒たちは本当にイキイキとして楽しそにしているのです。

31日には、この研修の肝である「講義」を生徒たちと一緒に聴くことができました。「講義」が肝であるという所以は、生徒が、後に「座談」と称されるグループ会議でその内容について深く話し合い、話し合った内容を発表し合うというプログラムが用意されてもいるからです。この日の講師の先生は浄土真宗大谷派の寺の住職で、高校の「宗教科」の教師でもある方が勤められました。その内容は大変興味深く、仏教に対して深い知識を持ち合わせていない生徒にとっても分かりやすく、且つ考えやすいものでした。もっと言うと、親鸞聖人や仏教そのものの教えについて語られた場面は少なく、ほとんどは『どのように生きるか』『どのように考えるか』を考えさせられるものだったのです。その中の一つを紹介します。東日本大震災のボランティアに行った高校生の話なのですが、目指す大学に合格できず意気消沈していた高校生が、震災によって家族をすべて失ったおばあさんに逆に励まされたといったものです。この「講義」には「本当に大事なこと」と「本当は大事ではないこと」というタイトルがつけられていました。いろいろな話題がありましたが、「講義」を聴き終えてみると、このことについて深く考えている自分に気付くのです。

今改めて考えてみると、世界中のどんな宗教も『どのように生きるか』を教え、考えさせるものではないかと思うのです。

本校には「道徳」の時間がありません。「宗教」の時間をそれに替えることができると学習指導要領にも書かれているからです。「道徳」の時間はまさしく「生き方を考える」時間です。この日、「宗教」の時間の意味について深く考えさせられもしました。

今月24日には「人権学習」があります。この時間もまた「生き方について考える」時間です。人が幸せに生きる権利（＝人権）を踏みにじること、すなわち、平気で他人をいじめたり差別したりするような生き方をするのか、あるいは、見ても見えていないふりをするのか、または、「それは断じておかしい！」と思ったり訴えたりできるのか、一人ひとりがどんな生き方ができるのかについて、自分を深く見つめる機会にしてください。生徒たちにはよりよい豊かな生き方のできる人に育ててほしいです。



2023. 5. 27. (SAT).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『新たな信頼関係』

2日間ほどクール・ビズで過ごしましたが、その後は寒くて、しまい遅れていた長袖カッターシャツを着ることになりました。5月の終わりって、毎年こんなに寒かったでしょうか。最近は日ごとの寒暖の差が激しく体温調節が難しいです。生徒の皆さんは、風邪などひかないよう留意してほしいところです。

さて、担任をしていた頃の昔話です。12月の3年生の進路を決める懇談会で、ある生徒とその保護者が、私（学校）の提案する高校よりも高いレベルの成績を要求される私立学校を受験すると言いました。『とっても無理だろう！』という言葉で封じ込めて「いったん預かります」と言って懇談を終えました。職員室でその旨を伝えると、先輩の先生が「きっと、塾との間でそういう話になったんやろう。ようあることや。」と言われました。沸々と悔しい思いが沸き上がってきたところに先輩は次のように続けられました。

「俺らと保護者、俺らと私立高校よりも強い信頼関係を塾が結んでる。そこは、見習わなあかんし反省もせなあかん。」悔しい気持ちが吹き飛び、このことに対する強い関心と担任としての決意が芽生えました。

一昨日、学習塾に対して「学校説明会」を開催しました。多くの教室の長の方々に来てくださいました。各教室長の若さに驚いたところですが、その中に本校の卒業生がいました。本校教諭の質問に対してその卒業生が答えています。その中で自然と本校のPRがされるように工夫されていました。『この企画は面白い！』観ながらそう感じました。また、学習塾の代表の方がその他の方々に対して“本校の特徴（よさ）”をまとめた内容を発表するというコーナーもありました。本校で実施しているのですから自然とその良さが強調されます。一方で、塾の内部で行われる場合には、こうしてマイナス面も共有されているのかと想像すると恐ろしくなったりもしましたが、2つともよい企画でした。夕方には責任者の方から次のようなメールが届きました。

光華中学校高等学校 校長 澤田清人様

本日はお忙しいところ弊社のためにわざわざお時間を頂戴し、ありがとうございました。先生方の丁寧なお話の中に、子どもたちへの熱い情熱あふれるお話や色々と改革にチャレンジされているところを感じ感動いたしました。また、学校見学の際、生徒のみならず元気に挨拶してくださり、素晴らしいと思いました。取り急ぎメールで申し訳ございませんがお礼申し上げます。今後ともよろしくお願いします。

絶妙のタイミングでメールされるところも含めて、こちらが見習わなければならないところが多く、メールの内容と併せて教職員に伝えました。

生徒との信頼関係、保護者との信頼関係、小中学校や地域との信頼関係のほかに、新しく学習塾との信頼関係の重要性に気付き、その築き方も学んだところです。



2023. 5. 18. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『たしなみ』

急に暑くなってきました。昨日は30度を超える真夏日になったようです。また、この暑さは今日も続き、私もとうとう半袖のカッターシャツで過ごすようになりました。まだ身体が暑さに慣れていないため、熱中症になるリスクが高いということも朝の情報番組の中で語られていました。今朝の職員朝礼でも、体育の後などは特に生徒の体調に留意してほしいと教職員に伝えたところです。



さて、私の友人の話を紹介します。彼は就職後に長い休暇をとってバックパッカーとなってアメリカを旅行しました。ハリウッド映画が大好きで、古いものから最新作までジャンルを問わず彼の知識と興味関心はアメリカ人の愛好者を超えるほどでした。「行く先々で出会った人とアメリカ映画について語り合うことが楽しみなんだ」と意気込んで旅立ちました。向こうに到着するなりそんな場面がやってきます。ところが、ハリウッド映画について語りたい彼に尋ねられたのは黒沢明監督をはじめとした日本映画についてでした。アメリカ映画が好きな彼は、実は日本映画についてはそれほど詳しくなく、相手は「なーんだ…」と興ざめしてしまったということでした。そのことを通じて彼が気付いたのは、外国人が日本人と話をする際には日本のことについて知りたいのだということです。

同じような話を友達の高校学校教諭から聞いたことがあります。高校の修学旅行で海外に行くことが流行りだした頃のことです。その高校では英語に力を入れており、生徒たちの英語力もなかなかのものでした。さて、訪問先の高校生と話す場面になりました。意気揚々とその場に臨んだ生徒たちは向こうの生徒たちの問いかけにうまく答えることができなかったということです。英語力には自信があるものの、話題に対する知識やないからだということです。つまり、外国人は日本の歴史や文化、政治や経済などに興味や関心があり、そのことを中心に話をしたがるのです。いくら英会話が堪能でも、そのことを知っていなければどうしようもなかったということです。

「動く」→「動き」、「取り組む」→「取組」などのように動詞から変化した名詞があります。「たしなみ」もその一つです。「たしなみ」を辞書で引くと、①このみ・趣味、②心がけ・教養、③つつしみ・節制と書かれています。つまり、「仕事」ほどではないものの「遊び」ほど軽いものではないと考えてよいのではないかと思います。

本校は「伝統文化教育」に力を入れています。この学習は、伝統文化を身に着けさせることではなく、体験を通してその良さを感じその本質に迫らせることを狙いとしています。伝統的文化が長く続いてきた背景には、ただ「守る」だけではなく、「革新的な考え方」もあったことでしょう。この学習を“たしなむ”ことで、その歴史や技術だけでなく、もっと奥深いものに気付いたら、将来何かの役に立つかもしれません。

2023. 5. 11. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『よいところ』

私の出勤経路は今出川通から烏丸通を五条通まで南下してきます。烏丸通は信号機が連動していて一斉に「青」になるので、ついついスピードを出し過ぎてしまいがちです。今朝、烏丸通に入ったあたりで対向車が2台続けてパッシングをしました。『あっ!』と思ってすぐに減速をしました。その直後、私を抜いていった車が物陰から出てきた警察官に呼び止められました。そう、「スピード違反の取り締まり」をしていたのです。この出来事から次の3つを学びました。



一つ目は、何かのサインを見逃さず、迅速かつ適切に行動を起こすこと。このことは学校生活の中でも重要です。二つ目は、見ず知らずの人に助けてもらったのも、仏さまが導いてくださった何かのご縁と捉えて感謝の気持ちを持って暮らすべきであること。三つめは、急いでスピードを出しがちになっていた自分を戒めることができたことです。『信号の一つや二つ先に行けたところで、到着時刻にそんなに大きな違いはないだろう』と思うこともできました。

こんなことを書いたのも、昨日経験した『朝の礼拝』での感話に影響を受けたからです。普段のそれは Zoom を用いて行い、生徒は各教室で視聴するのだそうですが、今回は春の生徒総会と一緒にを行うため全校生徒が講堂に集まって実施されました。

『朝の礼拝』は宗教精神を基盤に据えた本校ならではの取組ですが、その内容は真宗宗教歌の斉唱に始まり「総礼」（代表して私がお焼香と合掌を行います）「三帰依文（さんきえもん）の唱和」、「感話」と続いていきました。私にとっては初めての経験でしたが、たいへん厳かで、生徒の心の成長にとってもその学びは大きいと感じました。特に、他学年や他学級の生徒の様子を観ることに意義があると再認識したところです。

先週から順次、京都市内外の中学校を訪問しています。本校の校長に就任したことで生徒募集に向けてのご挨拶が主な目的です。ほとんどの学校の校長先生は顔見知りですが、ついつい思い出話のような長話をしてしまいがちですが、必ず伝えているのが上に書いたような「本校のよいところ」です。生徒募集に行っているのですから当然のことですが、今は1か月余りを過ごして私自身が感じたことを率直に話しています。その中で必ず話すのが次の2つの内容なので紹介します。

うちの学校の午前7時半ごろと午後4時半ごろの様子を観に来てほしい。部活動を頑張る生徒たちがガンガンやっている一方で、8時間目の授業が行われていたり、自習室や職員室前で大学生や先生に質問しながら自学している生徒たちもいる。生徒が、自らの個性と能力を思いっきり伸ばせる学校だ。国公立大学や有名私立大学に何人合格させたという部分では勝てない高校がある。けれども、本校に来てくれた生徒たちを大切にするとする部分ではどの学校にも負けない。その2つです。

本校ならではの良さを教職員全員で自覚し共有して、確実にPRしていきたいです。

2023. 5. 6. (SAT).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『部活動』

学校教育は「各教科」「道徳」「総合的な学習の時間」「特別活動」の4つの分野で実現されています。

中でも「特別活動」は、教育課程内のものと教育課程外のものに分けられます。「学年・学級活動」や「行事」は教育課程内、「生徒会・委員会活動」は教育課程内に位置づけられる場合とそうでない場合がありますが、基本的に「部活動」は教育過程外の「特別活動」であるとされています。

昨今、「働き方改革」との関係で、この「部活動」が話題になることが多いです。それが教育課程外だということ、教職員の本務ではないという立場をとる教職員が、若い人たちの中に増えてきたようにも聞きます。また、教師の過重労働の原因の多くが部活動の指導にあるとの指摘も社会で一般的になっています。部活動の指導に力を入れてきた者としてはやりきれない気持ちです。

さて、GW に入って、特に中学生の試合が中心に実施されました。3日には陸上部、4・5日にはソフトテニス部の試合の応援に行ってきました。出場した選手達はみな、生き生きと頑張っていましたし、その姿はキラキラと輝いていました。もちろん、全員が満足いく結果を得られたわけではありませんが、それでも試合に一生懸命取り組んで学んだことはたくさんあったと思います。

どちらの試合会場でも、選手たちが観戦のお礼を述べてくれる際にアドバイスを求めてくれました。日頃から練習を見ているわけでもない者が細かなことは言えませんが、どちらでも次の2つのことを強調しました。

今日の結果に満足かない人は、負けた理由を見つけてそれを真摯に受け止め、次の試合に向けての練習に生かしてほしいこと。一生懸命に練習に打ち込める環境を与えてもらっている周りの人への感謝の気持ちを忘れてはいけないこと。

5日の昼頃、学校へ戻ると吹奏楽部が暑い中のグラウンドでマーチングの練習をしていました。重い楽器を奏でながらの行進は体育会系部活動並みの重労働です。それでもみんな、来るべき本番に向けて一生懸命に取り組んでいました。練習を終えた陸上部の子たちが演奏に合わせて踊っている様子も可愛らしく実によかったです（笑）。

学生時代の一番の思い出を「授業」と答える人は少ないです。多くの人が学校祭などの行事や部活動に頑張ったことをあげます。特に部活動は、それに一生懸命に取り組むことで心と身体が鍛えられます。心身ともに強く逞しく、しかも謙虚で礼儀正しい魅力的な人、他校生の憧れになるような人を目指して励んでほしいと願っています。



2023. 4. 27. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』～ For the students～

京都光華中学校高等学校

澤田 清人

『女子校ならではの魅力』

本校は昭和 15 年の開校以来 83 年間、一貫して女子教育に取り組んできました。時代の流れと共に要求される女性の理想像は変化し、今や女性の政財界への進出は大いに進んでいます。欧米の例を見ても、今後はますますこの傾向が強まるものと思います。光華女子大学の PR チラシの中に次のようなことが書かれているので紹介します。



「女性の輝く社会実現」～80余年の伝統に裏打ちされた女性教育メソッド～

時代の変化によりその養成像は移り変わってきましたが、80余年の伝統に裏打ちされた女性の持つ能力を最大限に引き出す教育は今も進化を遂げています。

本学※の女子教育により個性、能力を伸ばし、さまざまなフィールドで自分らしく輝く将来を描きましょう。

※「本学」と書かれているのは、対象が大学生だからです

更に、中学校高等学校にも共通する女子教育メソッドを「光華メソッド」と呼んで3つ示しています。「方向性を示す」「寄り添う教育」「安心安全な環境」です。

う～ん、ここまでの文章はちょっと硬いなあ。これでは内容と特に魅力が伝わりにくいとも思うので、具体例を交えて書いてみることにします。

大学の高見学長先生から「教育効果を上げるうえでの男女差」の話をお聞きしました。数学の指導を例に挙げたそれによると、男子はある程度ヒントを与えると途中からは自分でどんどん解決方法を見つけて解いていくけれども、女子は解決策をたくさん示して、更にそれを一つひとつ丁寧に解かせることで自分に合った解法に辿り着くのだということです。これを聞いて思い出したことがあります。私は長くソフトテニスの指導に関わってきて、男子と女子の指導の仕方に違いがあると思っています。男子は同じ練習を1時間連続してできません。途中で飽きてしまうので、練習内容を次々と変える必要があります。一方、女子は同じ練習を1時間以上でもやり続けることができます。選手と指導者の双方が納得できるまで、じっくりと時間をかけて取り組ませることが有効なのです。

また先日、保健室を訪れた際に一人の生徒がしんどそうにしていました。どうしたのかと問うと「生理痛がひどくて…」と答えました。初めて会話した私に対してそう答えたのに驚きましたが、女子校ならではの安心感からの発言だと思いました。

本校の教職員は、こうした女子生徒の特性とその能力の伸ばし方を経験的に知っており、日々の指導に生かしています。これこそが女子校の良い点だと思います。

多くの学校が共学化していく昨今、女子校に勤める教職員は、女子校のよさについて自信をもって語る必要があります。今一度、教職員一人ひとりが「女子校ならではの魅力」について考え、それを言葉にし、皆で共有して、外部の人に訴えていく必要があると思います。これこそが入学前の子どもや保護者、学校等の関係者に対して真っ先に伝えるべきことだと思うのですがどうでしょうか。

2023. 4. 21. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『ワクワク感』

20日の木曜日、校内は朝から何やら妙に高揚感のある雰囲気になっていました。今年度赴任したばかりの私にとっては初めての「花まつり」が開催されるからです。「花まつり」はお釈迦様の誕生をお祝いするお祭りで、キリスト教でいえば、さしずめクリスマスに当たるのでしょうか。本来ならば4月8日がその日なのですが、他の学校行事との関係でこの日に開催されました。

前日の夕方から校舎の玄関にはたくさんの生花に囲まれたお釈迦様の像が飾られました。翌日の朝から、生徒や教職員が自由に甘茶を掛けるのだそうです。実際、翌日は多くの生徒がそのようにしていました。また、この日は、生徒がお釈迦様にお供えする生花をもって登校することになっています。登校時、いつもと違う登校風景を楽しく見せてもらいました。多くの子どもたちにとっては当たり前のことのようですが、それでもカメラを向けると可愛くポーズを決める生徒が多く、この日を楽しもうとしている様子が感じられもしました。

式典が11時から始まるというので10時30分頃に会場である大学の校地へ行ったのですが、すでに多くの幼児や児童、生徒や学生、教職員が集まっています。準備をしたり直前のリハーサルをしたりしているのです。代表としてのお参り（灌仏といひます）のほか、献灯、献花、合唱に吹奏楽など、多くの園児や児童生徒、そして大学生に役割が与えられていました。そうそう、開会前の入場パレードの最後を中高生のバトントワラーが担っていたのにも驚きました。

当日は4月の気温としては異例なく暑い日で、幼稚園児から高校生までの参加者は陽を遮るものもない中での鑑賞で大変だったと思いますが、それ以上に会を楽しもうという気持ちが勝っていたのか、終始にぎやかで楽しい雰囲気で行進しました。保護者の方の参加や参観があるだけでなく、外部に対してもライブ配信していると聞き、感心するとともに、仏教精神に基づく女子教育を目指す本校にとってのこの行事の重要性を改めて強く感じさせてもらったところです。

ところで、行事を行う上で特に大切なことの一つに、参加する者に“ワクワク感”を持たせるということがあります。今回のように、始まる前に既にそれが出来上がっていると、その時点でほぼ成功が確信できるとも思います。

翌日は全児童・生徒・学生（希望者）、教職員で京都四條南座まで「若き日の親鸞」というお芝居の観劇に行きました。親鸞聖人御誕生850年の慶讃法要記念公演です。こちら前日から“ワクワク感”いっぱい、生徒たちは大いに楽しみました。



2023. 4. 19. (WED).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校

澤田 清人

『信じるということ』

WBCの盛り上がりから早くも1か月が経ちました。野球観戦が大好きな私は、準決勝のメキシコ戦と決勝のアメリカ戦の劇的な勝利の瞬間を思い出すと今も興奮します。

さて試合後、栗山監督の選手を信じぬいた采配が大いに話題になりました。不振に喘いでいた村上選手を信じ、大事な場面でも使い続けたことが



メキシコ戦での決勝打につながりました。同世代の人間として、※WBC公式HPより
また、選手と教職員という違いはあっても集団をまとめる立場の人間として、インタビューのシーンを観ながらそのコメントに共感し、心を震わせることも少なくありませんでした。というのも、私たち教師の世界でも同じことがいえると思ってきたからです。学校という世界でいうなら、まずは生徒の中にある“伸びようとする力”、“できるようになる力”または“立ち直ろうとする力”を信じることです。次に教職員の“仕事にかける思い”や“仕事をやりきる力”を信じることです。生徒や教職員を信じ、結果が出るまでじっと待つことは時にしんどくもあります。しかし、そうして良い結果が出た時には、両者の間に強い信頼関係が出来上がるものだと思います。

信頼関係を結ぶことは、生徒・教職員間、生徒間、保護者・教職員間、保護者間、そして教職員間において、その関係を良好に保つうえで何よりも重要です。信頼関係さえあれば何でもなかったことが、それがないために問題が大きくなったりこじれたりして、互いに嫌な思いをするという経験もたくさんしてきました。

「信頼」と国語辞典を引けば、「信じて頼ること」と出てきます。頼れる相手がいることはどのような場面でも心強く、安心して生活できます。そして頼れる相手を作るのはその人を信じることから始まります。教師は生徒から裏切られることがあるかもしれませんが、それでも生徒を信じ続けることが肝要です。そうすることで、生徒は必ず教師の思い描く方へ戻ってくるものだとこれまでの経験から自信をもって言えます。

20世紀初めのドイツの哲学者であるニコライ・ハルトマンは「人間関係の不思議は、相手の中にあると信じたものが育ってくることである」と述べています。自分たちの周りを見渡してみても、生徒と教師の関係や好きな人との関係など『確かに！』と思えるものが少なくありません。信じることで相手が育ち、信じてもらった相手を信じ返すことでお互いの間に信頼関係が生まれ、頼り頼られる関係になるのだと思います。

入学式の日、モーニングにスタンドカラーのシャツを合わせて着ていました。私の姿を見た中学生の何人ががコソコソ話しています。訳を尋ねると「校長先生、襟が立っています。」と指摘してくれました。「このシャツはこういう形なんや」と笑って返しながら、この子たちとの間に良い信頼関係が結べるであろうことを確信しました。

「信じるということ」はこんな些細な出来事から始まるのかもしれませんが。

2023. 4. 13. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『学校は楽しいところでないと…』

朝のグラウンドで小学生が明るい声を上げて遊んでいます。また、中学校高等学校の先生が小学生の体育の授業を受け持ったりもしています。これまであまり目にすることがなかった小さな子たちの活動する様子を目にするようになりました。



「中学校高校の校長先生ですよ。」先生が紹介してくれると元気よく『こんにちは！』という声が聞こえます。近年、義務教育学校ができて公立校でも小学生と中学生とが同じ校地で学習することは珍しくなくなりましたが、高校生まで一緒にいるというのは私立校ならではの光景です。実によいもので、お互いにとってメリットがあることは間違いないと思います。 ※後片付けの時の写真です



私は小学校の教師を目指しており、採用試験も小学校を受けました。運良く合格し、最後の大学生活を満喫しようと信州のスキー場にいました。携帯電話のない時代です。民宿へ帰ると自宅から電話がありました。何と、すぐに“産休先生”として勤務してほしいと教育委員会から連絡があったとのことでした。そこから約40日間、小学校で4年生の担任をしました。この時の教え子の中には今でも年賀状のやり取りが続いている人がいます。『この学校で勤務するのか』と思いきや、中学校教諭として採用されることになりました。当時は全国的に中学生の“荒れ”が大変厳しい状況で、理想と現実との間で悩んだことも今では懐かしい思い出です。やがて、人生の疾風怒濤の時期を支える中学校教育の魅力にとりつかれました。指導主事になった頃から、非常勤講師として大学や大学院で教師を目指す学生に授業をするようになりました。この営みも実に遣り甲斐が大きく、今も続けています。『高校生との関りがあればなあ…』と思っていたところ、今年になってその機会を得ました。これで小学校から大学院まですべての学校で児童生徒や学生と関わることができました。先日、京都市内全域で勤務したと書きましたが、すべての校種で教育に関わったことも大変貴重な体験です。

さて、どの校種にあっても大切なことがあります。学校は楽しいところでないといけないということです。毎朝、登校してくる小中高校生に「おはよう！」と声を掛けます。明るく挨拶を返してくれる多くの子の中に、『何か課題を抱えているのかな？』と思わされる子どもたちがいます。そのような児童生徒も含めてすべての子が『うちの学校は楽しい！』『明日も来たい！』と思えるように努めなければなりません。

授業がよく分かること、信頼できる仲間や教職員がいること、夢中になれるものがあること等、“楽しい”に通じるものは多くありますが、一人ひとりに“居場所”と“出番”があることが何より大事です。教職員だけでなく、保護者会や地域の皆様方と一緒に、すべての児童生徒が明るく笑って生活できる学校を創造したいと思います。

2023. 4. 10. (MON).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『光華 “愛”』

7日に始業式を、そして8日に入学式を終えました。手前味噌ですが、共にとてもよい式だったと思っています。

始業式では、これまでの校長時代に実践してきた通りプレゼンテーションソフトを使って話をしました。慣れた形の式辞とは違うからか、生徒たちは



とても興味を示してくれました。話を終えた私は、こちらもこれまで通り生徒から感想や意見、決意などを求めました。実は今回は予め指名する生徒を決めてもいました。

一人目は2日(日)の「桜まつり」でお茶席を担当していた茶道部の生徒です。お茶をいただいた後に少し話をしたのですが、その際「私、学校が大好きなんです。朝早くから完全下校近くまで学校にいるので覚えておいてください。」と言われたのが忘れられませんでした。二人目は30年ほど前の教え子の娘です。この学校に通っていることが分かり、会ったこともない生徒でしたが指名することを密に決めていました。三人目はソフトテニス部のキャプテンです。彼女は、中学生時代の試合の開会式で私がしたあいさつの内容を覚えてくれていました。指名すると、腹を括った彼女らは壇上に上がってきました。『高校生ばかりやなあ』と思った私は、『私もっ…!』という子が中学生の中にいないのかと迫りました。一人の生徒が勢い良く手を挙げ、高校生から拍手を受けて登壇してきました。4人の生徒はとっても上手に自分の思いを語りました。会場から温かい拍手が起こり、生徒参加型の始業式が出来上がりました。

一方、8日の入学式は厳粛な中で整然と執り行い、前日のあったかい雰囲気とは全く異なるものとなりました。新入生たちはみな緊張感をもって臨みました。儀式的行事はかくあるべきという厳かな入学式が挙行できたと自負しています。式後、新入生の各教室を訪ねました。まだ緊張している生徒がほとんどでしたが、担任の先生の呼びかけで、保護者の方も交えた記念写真を撮影している学級がありました。私も入れてもらったのですが、撮影の際のムードは実に子どもらしく可愛らしかったです。

7日の放課後、出会った生徒の多くが始業式が楽しかったと言ってくれました。なかには「校長先生、今日のプレゼンよかったです!」と明るく評価してくれる生徒もいたりして、とっても温かい気持ちになりました。

全校生徒に触れて二日。目の前の子どもたちを本当に愛おしいと感じます。教職員からの大きな期待も強く感じます。そんな光華中学校高等学校に、そしてそこに居る生徒や教職員に対して深い愛情を感じていることを自覚してもいます。将にこれこそが「光華 “愛”」です。「光華 “愛”」をますます強め、深めたいと思います。また、本校に関わる多くの人にこの気持ちを共有してほしいと願ってもいます。きっとそのことが本校をグッと良い方向へと導いていくと確信しているところです。

2023. 4. 7. (FRI).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『今改めて思うこと』

4月1日付けで京都光華中学校高等学校の校長として赴任いたしました。2年間離れていた校長職ですが、改めてその責任の重さと、その何倍もの魅力を感じているところです。校長室で仕事をしていると、部活動に頑張る声や楽器の音色が聞こえてきます。『ああ学校に戻ってきたんやなあ』と忘れかけていた感覚が呼び覚まされるのが分かります。

こちらに赴任して、これまでの2年間と比べて何倍もの速さで時間が過ぎていくように思います。種々の会議への参加、課題への対応と対処、その合間の生徒や教職員とのやり取り等、楽しさと喜び、そして遣り甲斐を感じながら数日を過ごしました。

教師としてスタートし、教諭・教頭時代23年間を過ごしたのが東山区の中学校、校長として赴任した中学校が山科区、その後転勤したのは伏見区的最南端にある中学校、退職後に勤務したのは北区の端にある大学、上京区の中学校や中京区の市役所に勤務したことがあったものの、西の方の学校に行ければ京都市内全域で勤務したことになると思っていたところに今回の赴任です。まったく人生は面白いものです。

今回の学校は女子校です。男子生徒がいないことに当初は戸惑いましたが、元気に挨拶してくれる生徒や楽しく会話してくれる生徒に接するうちにその戸惑いもなくなりました。「今度、君たちの校長として赴任した澤田です。よろしくね!」と自己紹介をすると、皆が可愛らしく応じてくれました。その言動が実に愛おしく『この子たちのために頑張ろう!』という気持ちを改めて強くしています。

また、公立校と私立校との違いも見えてきます。生徒や教職員の価値観や態度や様子、学校での生徒の活動や教職員の働き方など、『なるほどな』と改めて感じることも少なくありません。そうそう、忘れてならないのが充実した施設です。公立校の教職員なら『さすが私立校!』と思うだろう施設や設備が校内各所に整備されています。

そのような中であっても変わらないもの、いえ、変えてはいけないものがあります。

生徒を大切にしたい気持ちです。大いなる目標をもって本校に来ている生徒たちの中にも、何らかの課題のある生徒がいます。その課題があるから本校へきている生徒もいるのではないかとも思います。その子たち一人ひとりを尊重し大切にしたいと最初の職員会議で教職員に伝えもしました。急速に少子化が進行する中で生徒募集が大きな課題です。そのような中でも本校を選んでくれた生徒たちがいるのです。

これらすべての子たちを真に大切にしたいと思ひますし、全教職員でしなければならぬとも考えます。私の教師人生で、おそらく最後になるだろう学校の子どもたちを大切に、この子たちと共に明るく楽しく歩んでいきたいと思っています。



2023. 8. 3. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ~ For the students ~

京都光華中学校高等学校

澤田 清人

『緊張感と闘志が溢れる表情』

夏休みに入って子どもたちの活躍が続いています。試合やコンクールで見せる顔は学校でのそれとは大きく違います。ポイントが決まった時や演奏が終わった瞬間のはじけるような笑顔も素敵ですが、やはり真剣勝負に向き合っている場面での緊張した中に闘志あふれる表情に惹かれます。そういった表情は、美しいと感じるとともに何とも言えない魅力を感じるものです。夏休みに入って以来、生で見た素敵な場面を3つ紹介します。



1つ目は、中学校陸上府大会での4×100mR 決勝です。京都光華優勝の前評判は圧倒的で、関心は2位にどれだけの差をつけるかと大会新記録が出るのかということところです。とはいえ、リレーでは何が起こるか分かりません。東京五輪の男子の4×100mR でバトンミスが原因で失格になったケースを思い出し、第1走者の出走前からこちらまで緊張しながら観ていました。上手くバトンがつながり2位以下にグングン差をつけ始めます。アンカーにバトンが渡った時点ではトップを独走。最後は大会記録との戦いとなりました。ゴール付近にデジタルのストップウォッチがあります。それを観ながらゴールテープを切ったアンカーは右手を高々と突き上げました。大会記録の更新です。あの子のあのようなパフォーマンスは初めて見ました。

2つ目は、中学校ソフトテニスの府大会個人戦の決勝です。相手の生徒は本校生徒の地元の生徒、いわば小学生の頃には一緒にプレーしてきた選手です。決勝戦まで勝ち進んできたわけですから上手です。2ゲームを連取した時には簡単に勝つのかなと思いましたが、作戦を変えてきました。アタックで前衛の足を止めておいて中ロブで後衛を走らせます。あっという間に追いつかれました。第5ゲームの1ポイント目、後衛が強気で打ち続け、前衛が思い切って動いてボレーを決めました。この時には思わず“ヨッシャーっ！”の声が出ました。これで掴んだ流れに乗り勝利しました。

3つ目は吹奏楽コンクールの高校の部です。7月30日のオープンスクールの際に同じ演奏を聴いていましたが、その時に比べると圧倒的に素晴らしい内容でした。女子校の吹奏楽部らしい丁寧で美しい音色が緊張感をもって最後まで奏でられました。終わった瞬間、長いこと息を詰めていたことを自覚したくらいです。部員たちも同じだったようです。会場から出てくる子たちは緊張から解放された安堵感とやり切った達成感に溢れていました。涙ぐんでいる生徒も保護者もいて、演奏の満足度がそこからも伝わってきました。『金賞ゲットしたかな！？』とも思いましたが、『これだけやったのだから、結果なんてどうでもいいや！』と思い直しました。夕方、顧問の先生から金賞獲得の連絡がありました。「よかったなあー。ホントおめでとう！子どもたちも褒めてあげてください。」そう言って電話を切りました。戦いはまだまだ続きます。

2023. 8. 3. (THU).

校長室の窓から

『この子らと共に』 ～ For the students～

京都光華中学校高等学校
澤田 清人

『緊張感と闘志が溢れる表情』

夏休みに入って子どもたちの活躍が続いています。試合やコンクールで見せる顔は学校でのそれとは大きく違います。ポイントが決まった時や演奏が終わった瞬間のはじけるような笑顔も素敵ですが、やはり真剣勝負に向き合っている場面での緊張した中に闘志あふれる表情に惹かれます。そういった表情は、美しいと感じるとともに何とも言えない魅力を感じるものです。夏休みに入って以来、生で見た素敵な場面を3つ紹介します。



1つ目は、中学校陸上府大会での4×100mR 決勝です。京都光華優勝の前評判は圧倒的で、関心は2位にどれだけの差をつけるかと大会新記録が出るのかということところです。とはいえ、リレーでは何が起こるか分かりません。東京五輪の男子の4×100mR でバトンミスが原因で失格になったケースを思い出し、第1走者の出走前からこちらまでが緊張しながら観ていました。上手くバトンがつながり2位以下にグングン差をつけ始めます。アンカーにバトンが渡った時点ではトップを独走。最後は大会記録との戦いとなりました。ゴール付近にデジタルのストップウォッチがあります。それを観ながらゴールテープを切ったアンカーは右手を高々と突き上げました。大会記録の更新です。あの子のあのようなパフォーマンスは初めて見ました。

2つ目は、中学校ソフトテニスの府大会個人戦の決勝です。相手の生徒は本校生徒の地元の生徒、いわば小学生の頃には一緒にプレーしてきた選手です。決勝戦まで勝ち進んできたわけですから上手です。2ゲームを連取した時には簡単に勝つのかなと思いましたが、作戦を変えてきました。アタックで前衛の足を止めておいて中ロブで後衛を走らせます。あっという間に追いつかれました。第5ゲームの1ポイント目、後衛が強気で打ち続け、前衛が思い切って動いてボレーを決めました。この時には思わず“ヨッシャーっ！”の声が出ました。これで掴んだ流れに乗り勝利しました。

3つ目は吹奏楽コンクールの高校の部です。7月30日のオープンスクールの際に同じ演奏を聴いていましたが、その時に比べると圧倒的に素晴らしい内容でした。女子校の吹奏楽部らしい丁寧で美しい音色が緊張感をもって最後まで奏でられました。終わった瞬間、長いこと息を詰めていたことを自覚したくらいです。部員たちも同じだったようです。会場から出てくる子たちは緊張から解放された安堵感とやり切った達成感に溢れていました。涙ぐんでいる生徒も保護者もいて、演奏の満足度がそこからも伝わってきました。『金賞ゲットしたかな！？』とも思いましたが、『これだけやったのだから、結果なんてどうでもいいや！』と思い直しました。夕方、顧問の先生から金賞獲得の連絡がありました。「よかったなあー。ホントおめでとう！子どもたちも褒めてあげてください。」そう言って電話を切りました。戦いはまだまだ続きます。